

## まちづくり調査特別委員会会議録

- 1 開会日時 令和5年5月12日（金）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和5年5月12日（金）午前11時25分
- 3 会議場所 熊山支所大会議室
- 4 出席委員

1 番 牛尾 直人君	2 番 鼻岡 美保君	3 番 安藤 利博君
4 番 永徳 省二君	5 番 大森 進次君	6 番 光成 良充君
7 番 保田 守君	8 番 大口 浩志君	9 番 治徳 義明君
1 1 番 金谷 文則君	1 2 番 松田 勲君	1 3 番 福木 京子君
1 6 番 実盛 祥五君	1 7 番 佐藤 武君	
- 5 欠席委員

1 0 番 原田 素代君	1 4 番 佐藤 武文君	1 5 番 下山 哲司君
--------------	--------------	--------------
- 6 説明のために出席した者

市 長 友實 武則君	副 市 長 前田 正之君	
総合政策部長 倉本 貴博君	総 務 部 長 戸川 邦彦君	
財 務 部 長 杉原 洋二君	建設事業部長 高橋 渉君	
赤坂支所長 小坂 憲広君	熊山支所長 稲生真由美君	
総合政策部参与兼 建設事業部参与	岡本 和典君	政策推進課長 山崎 和枝君
地域整備推進室長 森本 祐司君	政策推進課主査兼 地域整備推進室主査	池田 純君
- 7 事務局職員出席者

議会事務局長 土井 常男君	副 参 事 野田 順子君
主 任 平尾 和也君	
- 8 協議事項 1) 特別委員会の進め方について  
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（金谷文則君） 皆さん、おはようございます。

それでは、ただいまからまちづくり調査特別委員会を開会いたします。

換気のために、会議室の出入口については開けたまま進めさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いをいたします。

下山委員、佐藤武文委員、原田委員より欠席の申出がありましたので、御報告を申し上げます。

それから、執行部については、坪井教育長、中務吉井支所長が欠席ということでございますので、御報告いたします。

それでは、今日は初回ということもありまして、市長においでいただいておりますので、友實市長より御挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、おはようございます。

本日は大変御多忙の中、まちづくり調査特別委員会ということで多数の委員に御出席いただいておりますので、誠にありがとうございます。

挨拶の前に、新型コロナウイルスも5月8日、これを機に今まで2類だったものが5類になったということで、赤磐市としても、これまでのいろんなイベントへの制限あるいは執務室内の感染防止対策、こういった市民との距離が開いているという部分については撤退しながら、感染にも注意を図りながらしばらくは執務を進めていこうということで対応させていただいております。委員の皆様方も御理解をいただけたらと冒頭に申し上げさせていただきます。

そして、本日まちづくり調査特別委員会ということですが、この委員会の趣旨といたしましては、私たち執行部と同じ方向性を見据えていただいて、赤磐市を活力ある、活性化のある町を推し進めていこうということで発足をしていただいております。

ざくっと全体の赤磐市の方向性を申し上げますと、これまでも説明させていただいてるんで簡単に進めたいと思っております。

赤磐市は発足当時から南部地域と北部地域の目指すまちづくりというのが定められておりまして、高規格道路である美作岡山道路、そして南部地域では山陽自動車道、こういった交通の要衝をしっかりと押さえながら企業を誘致し、活性度の高いまちづくりを目指すということでございます。

そういった中で、我々としてもまずは美作岡山道路のインターチェンジ周辺、こういったところを中心に企業の誘致をトップセールスということで私自らもいろんな企業に会って誘致を進めております。そして、山陽自動車道の山陽インターチェンジの周辺、これにおいても同様にこれまでも積極的に企業誘致を進めて話をしております。そういう中で、特に赤磐市で

は山陽インターチェンジ周辺、旧山陽町では都市計画区域ですので、都市計画の変更を行わねば何も調整区域ではできないということから、その都市計画の変更手続を進めてきております。この手続についても、決定権者が岡山県知事、そして国土交通省の同意が必要になってきますので、農地転用については農林水産大臣の同意が必要でございます。こういったハードルの高い手続になってまいります。これを推し進めるためにも、今まで執行部としては、関係省庁との協議、岡山県との協議、そういったものを重ねてきております。ようやく前向きな議論に差しかかっているところでございます。

そういった中で、今度は都市計画区域の中へ、市街化区域に編入ができた後にどうしていくのかということとはとても大切になってきている状況でございます。民間企業に誘致をお願いしている部分については、民間企業のペースをお願いをすることが基本でございます。しかしながら、全体のまちづくり、あるいは一角にまとまった土地を公共用地として確保する形を考え、そこにはこれまでも市議会や市民の方々から、ニーズの高い道の駅あるいは交通結節点、あるいは市内外からのお客さんと交流できる場所、こういったものを目指していこうということで予定をしております。これについて市議会と我々執行部が一体となって前向きな検討ができるように、この特別委員会でも御提案をさせていただくつもりでございます。

何とぞ前向きに積極的な論議をしていただいで、明るいまちづくり、みんなが目指す魅力のあるまちづくりに御協力をいただきたいと強く思っておりますので、挨拶が少し長くなりましたが、皆様方をお願いをしながら冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

副市長、最後の挨拶も何もできないんで、せっかくおいでいただいでるんで、ちょっと副市長も一言御挨拶をいただいたらありがたいかなと。

○副市長（前田正之君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 前田副市長。

○副市長（前田正之君） 気を遣っていただきましてありがとうございます。

本日、まちづくり調査特別委員会ということで、先ほど市長が赤磐市の今後の明るい展望ということで、しっかりと執行部が都市計画の変更を踏まえて準備を進めてまいっております。そういった中で、広いエリアではありますが、公共ゾーンというようなところもあります。これが本当にこれから赤磐市民のため、そして日本全国から訪れる皆さん方にとってどういったものが必要なのかということ、しっかりと執行部も調査研究しておりますが、市民の代表でいらっしゃいます市議会の皆様方にもいろいろと御意見、そういったものをいただきながら、両輪であります議会と執行部でまちづくりの拠点、そういったものを固めてまいりたいというふうに思っております。

大変お忙しい中ではありますが、いろいろと協議をいただきまして、一緒にしっかりと赤磐市

民の皆さんが求めるもの、そして赤磐市をしっかりと外へアピールできるもの、そういったものをつくっていきたいと思っておりますので、お忙しいとは思いますが、御意見、そういったものをいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（金谷文則君） どうもありがとうございました。

それで、正式には今日が最初の委員会というような格好になるんですけど、大切な委員会なので、これからどのように進めていくかということをお聞きして、それを正副委員長で一遍まとめて、皆さんにお聞きしたのから、次回からどういうふうに進んでいきたいということを提案させていただいて、それで進めさせていただこうと思っておりますので、執行部の皆さん、それから委員の方々、御了解をいただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） この後、私たちの協議に入りますので、市長、副市長はこれで結構でございますので、どうもありがとうございました。

〔市長 友實武則君、副市長 前田正之君 退場〕

○委員長（金谷文則君） それでは、協議事項に入りたいと思っております。

先ほど申し上げましたように、今日は初日ということもあるんですが、期数の大きい委員の重要な3人は欠席ということでございますが、今日出席された皆さん方の御意見に従って前に進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

順次、委員の皆さん方にそれぞれ、どういう委員会にしていくか。先ほど市長、副市長がおっしゃられとるのは、新しく何かをつくっていくという、企業を誘致したり場所をつくったりというお話しかなかったんですけども、本来まちづくりというのは、今現状のまちをどのようにしていくか。大きな問題があれば、それを解決しながら新しいものも混ぜていくというのが本来のまちづくりだと思います。先から委員長がそのようなことを言うのもちょっとはばかれるんですけども、まちづくりは新しくつくっていくことだけがまちづくりではないという中で、皆さん方のこれからの進め方についてどうやったらいいかという御意見をお伺いしたいと思います。

まず、期数の新しい方から順次お願いをしたいと思います。

最後に一番期数の長い方がいい意見を言われると思っておりますので、期待をして、よろしくお願いいたします。

それでは、牛尾委員、よろしくお願いいたします。

○委員（牛尾直人君） せっかく全議員で進めようということになりましたので、皆さんそれぞれの思いを言い合えたりすればいいと思うのと、全員でなかなか一つの行動というのは難しいにしても、道の駅を見に行くであるとか、興味があるようなところがあれば、持ってきてここはどうだろうかというような、外へ足を運んでどういうやり方でやられとんか、失敗したこ

とであるとか成功したことであるとか、同じ規模とか同じ内容のところを目指して、もっともっと外へ見に行くような時間を持ってもいいのかなと思っております。

長くなってもあれなんで、以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

続きまして、2番鼻岡委員、よろしくお願いします。

○委員（鼻岡美保君） 市民の声が引き上げられて反映されるようなやり方、引き続き説明会を適宜開いて進めていただきたいと思います。私も、市民の皆さんの意見をお聞きして勉強していきたいと思います。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございました。

それでは、3番安藤委員、よろしくお願いします。

○委員（安藤利博君） この委員会設立の目的で、一つが新拠点について、それともう一つが旧来地区のまちづくりをどうするかという2つがあったと思うんです。その新拠点について、前回の補正予算が私は賛成しましたけど、基本的にこの新拠点は言われてる立地適正化計画、これとは僕は異質なものだと思ってます。新拠点はずっと前から言われていて、古くは山陽町時代からかもわかりませんが、必要は必要だろうと思うんですけど、これを国交省が出してきた立地適正化計画の枠組みに入れて進めようとしていると捉えています。その立地適正化計画は文章では出てきますけど、コンパクトシティ、人口減少、高齢化社会に向けてどうやっていくかということが主眼になってるんですけど、市長は12月議会で鼻岡議員の質問に対して、コンパクトシティには反対だとはっきり言われました。けども、その新拠点が要るかどうか、これは別個なんで、だから立地適正化計画が想定している計画とは異質な新拠点だと私は捉えています。要らないという意味じゃないです。前提として、このまちづくり調査特別委員会で検討していただきたいのは、地域の分け方がもう昔の旧4町のままになってる。少なくとも、赤磐市の地域分けをするのであれば、旧4町と山陽団地、桜が丘、6つの地域に分けて考えないと駄目だと思ってます。この特別委員会でやるとすれば、それに加えて新拠点をどうするか。だから、7つのテーマについて検討すべきだろうと思ってます。もう今の市長の挨拶でも新拠点しか言われてませんが、旧拠点、山陽団地、桜が丘、赤坂、熊山、吉井、これのまちづくりどうするのかということを議論すべきだと思います。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございました。

それでは続きまして、4番永徳委員、よろしくお願いします。

○委員（永徳省二君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） この委員会の在り方について、私の希望ですけれども、官公庁主体で

物事を考えると、非常に魅力のない効率の悪い施設あるいは環境になる可能性が非常に高い。したがって、できるだけ民間に任して、そういう開発も含めて進めてもらいたいと考えてます。だから、この委員会はどういう委員会にすべきかと考えると、民間が参入しやすい、民間が動きやすい環境をいかにこの委員会でつくっていくかが重要かと考えてます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

それでは、5番大森委員、よろしくをお願いします。

○委員（大森進次君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大森委員。

○委員（大森進次君） 皆さん、具体的に出てくるのかなと思ってたんですけど、なかなか具体的に出てこないの、確かに言われとることは分かるんですけど、まちづくりということで言われてるんで、新しいところを、農地を商業地に変えて、そこには今まで赤磐市になかった、要はホテルとか、そういったことも含めた形での検討をしていかにやいけんのじゃないかなと思ってます。ハブステーションみたいなのも具体的につくって、ネオポリスの今の商業跡地ももう40年ぐらい何にも動いてないような状況で変わってません。そういったことも含めて、同時に1つずつ進めていってもらいたいなと思ってます。官民一体となって、同調して1つずつ進めていかなと前に進まんで、ぜひとも成功させるべくやっていけるよう、委員会も含めて数多くして、現地を確認して、皆さんの思い、意見を吸い上げながら、新しいまちづくりをやっていっていただきたいと思ってます。

先ほども言われてましたけど、4町ある中で吉井のほうをほっとくとかというんじゃなく、順番にやっていかなと一遍に4か所全部できんで、1つずつやっていくということで、赤磐市全体のことを考えて物事を進めていってほしいと思ってます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

それでは、7番保田委員、よろしくをお願いします。

○委員（保田 守君） 今日休まれとる3人は、共通の理由じゃなしに、個々の理由で休まれとんどですか。

○委員長（金谷文則君） それは個人情報です。

○委員（保田 守君） 我々の2倍も3倍も意見を持っておられる3人だと思うんで、何かええ意見が聞きたいなと思うんですけど、非常に休んでおられるというのは残念に思います。

私自身もそういう新交通拠点で道の駅みたいなものができるんなら、こういうものをつくったらええというプランは、全国のいろんなどこへ行ってそういう形のものを見てきてあります。それは、いつか具体的にまとめてお示しするような、こういうことをしたらええよということを発言していこうと思うとんどです。住民の人と話をして、感じたことや自分が言いたいことを言うて、住民の人からも自由な意見が返ってくるんで、そういう意見を皆さんの前で発表

して、少しでも個々の人間の意見が反映できるところは反映させたい。そのためにも、この委員会が重要になってくるんだと思います。

次々にそういういいことが簡単にできるんなら、どこがええんならとおばあちゃんに言われたら、無人のバスが来て迎えに行って買物ができたらえかろうと。具体的な示すものではないかもしれんけども、そういうことを目指してやっとなだよというのは言うてます。それから、全国からいろんな人があそこへ行ってみたいという要素もその施設の中へ入れてほしいと。自分でも、そういうものが相まった施設になればと。今は、そういうことは考えて、頭の中ではまとまってないんですけど、地元の皆さんの意見をよくみ上げて発表させてもらおうと思うてます。協議の場所へその意見を上げるということを考えております。よろしくお願ひします。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

それでは続いて、大口委員、よろしくお願ひします。

○委員（大口浩志君） 古い話を持ち出して申し訳ないんですけど、12月議会の結果は、どうも新拠点ができるバラ色の未来が待つとというようなことを全面的に出されとったことに対して、議員個々の考え方はそれぞれあると思いますけど、いわゆる本当にそれでいいのかという違和感を感じられた方が多かつた結果かなと思っています。

だから、新拠点ができていろんなものがあそこへ集積するようになると、もちろんプラスの部分もあると思います。あわせてそれに伴い、マイナスの部分に対するフォローをどうするかということをお忘れずに議論の俎上に載せていただきたい。だからこそ各地域の振興というものがこの委員会についとるんだと私は理解をしてるんですけど、プラス面があれば人口移動等も含めてマイナス面も必ず、日が当たる部分と陰の部分はどうしても出てくるとお思いますので、その辺に対する認識とフォローをどうするのかというのはぜひお忘れずにやっていただきたいなと思つてます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

続きまして、実盛委員、よろしくお願ひします。

○委員（実盛祥五君） 今現在、農地が荒れております。これをほつとくと、よその国から来るというても、この間もプーチンはまだ戦争はやると言ひよられましたんで、いろんな食料難が来ると思ひます。この農地を官と民が一緒になつてどないかして食料づくりができるようにしないと、先には食料難が来るおそれがあると思ひます。そこらを官と民が協働で、この今荒れ放題の農地をまたどないかして食料ができる体制を心がけていかないといけな思つておりますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

次に、治徳委員、よろしくお願ひします。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 恐らくまちづくりというのは、少子高齢化とか東京一極集中で、人口減少に歯止めをかけなければいけないということで、国が10年ぐらい前から立地適正化計画を進められてきたんだろうと思ってます。その背景には、基礎自治体が魅力ある町にならない限り人口減少の歯止めはかからないというのが一つの大きなコンセプトだと思ってます。しかしながら、知る限りでは基礎自治体、もう400以上の自治体が本気で進めているということがあります。その背景あたりをしっかりと執行部の方には説明していただくとともに、プランがあるんでしょから、プランもしっかり説明していただいた上で、委員が一番興味を持つてるのはアクションプランですので、アクションプランの案をしっかりと出し合ってやっていくような委員会にしていくべきだろうと思います。それから、先ほどどなたか申されましたけれども、まちづくり調査特別委員会で視察をするべきではないかなと考えます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございました。

続きまして、松田委員、よろしくお願いします。

○委員（松田 勲君） 皆さんいろいろ御意見があるんですけど、本来、このまちづくり調査特別委員会を設置するに当たって2つ目的として上げられたと思うんです。一つは新拠点地域における公共ゾーンの整備について、もう一つが旧4町のまちづくりの振興計画ですね。この2つがメインになっております。その中でも、今12月議会の話も出ましたけど、喫緊の課題である新拠点の公共ゾーンの整備、これは待たなしの状態だと思います。民間が参入しやすい環境づくりという意見もありました。私もそう思います。そういう環境づくりを早くしていかなくちゃいけない。そのためにも、さっき市長も話がありましたけど、市街化調整区域を市街化区域に変更していただくことがまず一番ですし、そのための計画を早くやっていかなくてはいけないと思います。今日も資料を添付されておりますけども、これは何回か見た資料でもございますけど、こういった資料の説明も含めて執行部からまず説明を、こういうふう考えているんだというところをしっかりともう一度再度教えていただきながら、そういった中で具体的に市街化区域になったときに、我々が考えて思っていることと執行部が思っていることが合致していけばいいんじゃないかなと思っております。そういった中で、また旧4町の拠点のことも、整備も振興も含めて話しを進めていったらいいと思うんですが、まずは喫緊の課題の市街化区域に持ってくるための計画も含めてやるべきじゃないかなと。じゃないと、話がどんどん広がり過ぎて、農業のことが出てくるとまた話が変わってくると思いますので、もう少し絞って進めていかないと、広くなり過ぎると駄目なんじゃないかなと思ってます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございました。

福木委員、よろしくお願ひします。

○委員（福木京子君） 考えたら、山陽団地や桜が丘の大規模造成がされたときに町がぐっと変わってきた。それと同じようなことを、今後まちづくりをみんなで考えてどう発展させていくかという、大きな問題だと思うんですね。だけど、その中で本当に市民の声を聞いて進めているかといったら、アンケートは取られとんですが、説明会もやっと何ぼか開かれましたが、結局市の説明で、市民の意見の時間をあまり確保してないわけですよ。まだまだ言いたかったけど言えてない。だから、市民の声がなかなか反映できてないと思います。

それで、何人かにいろいろ聞いてみて、赤磐市の総合計画というものがあって、それにのっかって、それぞれ5年計画が進んでいっています。だけど、その進んでいってるものが本当に実現をしていってるのかと。もうなかなか声が届いてない。いろんなものももう進まない、後回し。何年言っても前へ進まない。そういうものがあるのに、何か新拠点構想に力を入れようとしてる。それは、国の政策もあって、コンパクトシティとか、そんなのがあるけど、それにこだわらないと市長は言われたんだから、そこはもうきちっとしっかり聞かせてもらったんですが、各地域それぞれが活性化しないと全体は活性化しないと思います。

そして、取りあえず農地をもっと発展させるために調整区域から市街化区域に、少し面積が広がりますが、全体の地域をどうするか。そういう意味では、それぞれの地域でもっともっと説明会を開いて、みんなの声を聞いていかないといけないと思います。

それで、具体的には公共ゾーンのことですが、道の駅というのが1つもう決まったような、方向で語られていってるんですが、担当の委員会では何ぼか視察もされたりはしてるんですが、どういうものなのか。本当に、あそこへ道の駅をつくって、将来町の発展につながるのか。それから、岡山自動車道ができてるけど、ある人に聞きますと、無料で休憩場所がないんです。結局、インターチェンジを下りたところへそういう道の駅なんかをつくってる。そういう方向らしいんですね、国の政策が。広島県の尾道市から三次市にかけて、そういう無料の高速があって、そこもトイレ休憩場所がないから、大体インターチェンジの下りたところへそういう道の駅ができてやっていると意見も聞きます。だから、本当にどういう施設が市民にとっていいのか。もちろん観光にも力を入れるんだから、そのバランスがあると思いますが、市民の声をもっともっと聞いて、つくる順番というか、バランスというんですか、あまり山陽地域の中心のほうへだっと力を入れ過ぎるんじゃなくて、それぞれのバランスよく、その地域の特色を合わせて発展していく、それをある程度並行的にしていって、そういう行政が絶対必要だと思います。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

それでは、光成副委員長。

○副委員長（光成良充君） 事前に考えて話ししようかなと思ってることは、ほとんどもう皆さんがおっしゃられたことで、多分皆さんの考えと私の考えというか、この中の皆さんの意見

というのは多分ほとんど一緒だろうと、今聞いて思いました。

私も同じように、新拠点の整備を進めるにもいろんなところを見てから、こういうのをしないといけない、こんなものが必要じゃないかなってというのが分かってくると思うので、それも必要なことだと思っております。それに合わせて、今後の民間のところについても、民間は民間でやっていただくので、それが早くできるような整備計画もしていけないと思っております。

ということで、皆さんの考えと一緒に、多く語っていても時間をもったいないので、そういうふうを考えて進めさせていただいて、今後、委員長、副委員長と執行部等で協議をしながらいろんなもの案を示させていただければと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 最後に、議長、御意見をお願いいたします。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤議長。

○委員（佐藤 武君） 光成副委員長が最後の取りまとめ的な発言ということで、私もそういう思いで聞かせていただきました。

委員の皆さんから多種多様の意見が出ました。そうしたものを含めて、よりよい形で執行部と一緒に、市民が納得するような形、さらにはスピード感を持って赤磐市活性化のために取り組むことがより必要になってくると思っております。

そうした中で、いろんな意見が出されたんですけども、まずこの我々の任期というのはもう2年間しかございません。そうした中で、2年間かけて調査を進めるというのも一つの方法かもしれませんが、新拠点整備というものが目の前にある中で、スピード感を持って事業も進めないと、民間の企業もなかなか二の足を踏んでしまうんじゃないかなという心配もありますので、そこら辺も十分研究しながら、より適切な対応が求められると思います。

相手あってのことですので、永徳委員からも御発言がございましたように、民間の感覚で対応が必要になるかなということも私も感じております。

そうしていく中で、松田委員からもありましたように、まちづくり調査特別委員会を設置するに当たって皆さんで議論した課題というのは、まさしく旧4町、山陽地区に新拠点整備ができることになるんだけど、旧来の町が開発振興について不公平感があるんじゃないかというような指摘もある中で、この旧来の4地区の振興事業、総合計画にも盛り込まれております。そうした総合計画の中に盛り込まれております旧4町地区の事業計画というものも当然含まれているということですので、そこら辺も確認をしながら、と同時に新拠点も調査を進めなければならないと思っておりますけれども、先ほども申しましたように、時間がございますので、産業建設常任委員会の中で一定の議論が重ねられたと認識しておりますので、まずスタートとし

ては、産業建設常任委員会で説明があった部分について、このまちづくり調査特別委員会で御説明をしていただければいいのかなと思っております。

ほかにもございますが、最初でございますので、この程度でよろしく申し上げます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

皆さんからの思いを語っていただいたんですけど、私が当初に皆さんにお願いしたのはこの委員会をどういうふうに進めていこうかということをお伺いしたんですけど、それについて話すよりももう少し自分の思いのほうから先で話されたようでして、この委員会は毎月毎月例えばやっつけいこうとなかなかできるようなものじゃないと思います。けども、一つの新拠点整備事業という大きな事業がある。それから急いでやらなきゃいけないものもあるという中で、議会がどういうふうを考えておるかということをしっかり執行部へお示しするというのが必要なことだろうと思います。そのためには、この会議を例えば二月に1遍、こういう形で会議を進めていく。その前に毎月、それぞれの委員会がありますので、それぞれの所管の委員会に関係することについては所管の委員会の中で御協議をいただいて、その結果をまたこの特別委員会の中に出していただくというスタンスが必要じゃないのかなと、それが会議の進め方だろうと私は思っておるんですけど、そのようなお話がどなたもなかったんです。まずは、そういう進め方について皆さんからの御賛同もいただきたいということと、一つ、新拠点がどうしても頭にちらつくんですけども、本来、最後のほうでもちょっとお話が出たように、赤磐市全体がどういう、旧町を含めて合併のときから、こういうことをやっていきたいとか、こういうことをやるということがあったわけですから、もう一度我々委員が、どういうものを合併のときに要望があって、やっつけいこうという計画書の中に載っているのかということを確認すると、これが必要なだろうと思います。これをやりながら、今度新しく今計画をされてるもののがその上に乗っかってくるということです。そのことによって、今までのことができなかったところへまた負荷がかかってくるわけですから、今までのところは当然、今の赤磐市の流れからすると、置いてけぼりをしなきゃ多分できない。それは市民には納得いただかないと、もうできないことだろうと思います。それを皆さんに分かっていただくようにするためには、我々委員がどういう形でこの会議を進めていくか。そのためには一つ、視察というの、これはもう道の駅というのが頭にある中で、新拠点をつくったときのほかの地域の視察ということが一番の頭だろうと思うんで、切り離して考えなければいけないんですけども、旧来の要するに本来の赤磐市がやっつけいかなきゃいけない、やってきてる、進めていかなきゃいけないものがどういう形で到達しているのか、実行されてるのかということも検証しながら、その上に、まちづくりのこの今の計画が負荷をかけたときに本当に大丈夫なのかということも検討するという時間を持ちながら会議を進めなきゃいけないのかなと思います。

今日、たくさんの意見を出していただいておりますので、先ほど副委員長も申しあげましたように執行部と一緒に。大体、皆さんの意見というのは市民の声を聞いて、それから新拠点整

備をできるだけ急いで前へ進めていかなきゃいけない。それから、民が参入しやすい形を取っていかなきゃいけないということと、もう一つは、実際にどういったところで例えば道の駅とか新拠点ができきてるのか、それを視察へ行くべきだと、実際に見なきゃ分からないという御意見がかなりあったかと思えます。そういうものを取りまとめた形で会議の進め方を皆さんに、次の、多分来月の本会議中には一遍お出しをして、本会議中の時間が取れる、例えば質疑等の後の時間がもし取れるようであれば、ちょっと皆さんにお諮りして、その後に委員会をさせていただき、少しでも早く進めさせてもらえたらなど、委員長としての思案はありますが、これはちょっと協議をさせていただきたいなと思えます。

基本的には二月に1遍ぐらい、ちょうど今月やりましたら、6月はちょうど本議会がありますので、正規には7月ぐらいに委員会をやっていければなと思っておりましたが、さっき言われたように、我々の任期はあと2年でございますので、それまでには、全部が全部取りまとめというのはできないかもしれませんが、新拠点のほうをできるだけ早くやって、あと全体の計画のことも最後にはきちっとまとめていきたいなと。

それともう一つ、今日の時点で、今議長もお話をされたんですが、産業建設常任委員会ですか基本的には議論をやってない部分ですので、これから先に進んでくると、それぞれの3つの常任委員会が所管する部分と共通してくる部分が出てくると思います。それぞれの所管委員会の中に関係することをこの特別委員会で、これは総務の中でも一応協議をいただきたいとか、それから厚生文教の中でもこのことについて協議をしていただきたいというのを、ここの全員の中で割り振って委員会の中で協議をいただいて、2か月に1遍ぐらいと思ってる特別委員会へフィードバックをいただいて、皆さんが共通認識と共通協議をするという形での進め方をさせていただいたらいいのかなと思っておりますが、その辺についての御意見がございましたらちょっとお伺いをしたいと思えます。いかがでございましょうか。

おおよそは、私が今申し上げたような方向でよろしいでしょうか。御同意いただいたということよろしいですかね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、そういう方向で、副委員長と、それから執行部と相談しながら進めさせていただければと思います。

それから、次の委員会の予定ですけども、2か月に1遍は正規に委員会をやりたいと思うんですが、今日のこの取りまとめができるだけ早くできたほうがいいのかなと思えますので、先ほどちょっと勝手に申し上げましたけど、来月にはなりますが、本議会中のそれこそ質疑とかで早く終わるようなときに、1時間なり時間を取らしていただいて、こういう形のやつをまとめましたという御報告をさせていただければなと思うんですが、その辺はいかがででしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、それはそのように進めさせていただきたいと思います。

そして、我々は今日は進め方についてをメインにやっております、執行部からは、今まで新拠点を含めてどういう形で今思っているかという資料をしつこいようではございますが、皆さんに御理解をいただくために資料を用意しております。そして、執行部も説明員を用意して来ていただいておりますので、執行部から、今日添付させていただいてる新拠点における共通ゾーンの整備についての資料説明をいただけたらと思います。よろしいでしょうか。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） それでは、少しお時間いただきまして、お手元の資料を御説明させていただきたいと思います。

3ページとなります。この3ページ以降は4月の市民説明会のときに使用させていただいた資料となります。こちらは、内容としてかなり幅広い内容となっておりますけども、少しかいつまんで説明をしたいと思います。

3月23日に協議会を開催しまして、それまでパーツパーツでそれぞれの分野について協議会で検討してたんですが、それを一まとめにして一応素案という形でまとめさせていただいております。それをベースに作った資料がこちらということになっております。

それで、4月23日には市民説明会を開催いたしております。それから、あと新拠点エリアとなります河本、岩田地区の地権者の方を対象に説明会もさせていただきまして、トータルで160名ぐらいの方に御参加をいただいたというところです。

御意見としましては、特に新拠点というところが多かったですけど、新拠点のこの計画というのは今後どういうふうに進んでいくのかとか、公共交通が使いにくいとか、もっとこういうふうにはできないのかとか、公共交通の関係の御意見というのでもかなり頂戴をいたしております。

それから、資料を説明させていただきます。

最初の3ページ以降、ここはもう現状と課題というものを4ページ、5ページ、並べております。6ページ、7ページですね。

それから、8ページで、現状と課題を捉えまして、中段の枠の中に書いておりますが、一応立適の中の整理としては、ここにちょっと赤字で書いてますけども、ベッドタウン、今の状況からコネクティッドシティへと。ちょっと分かりにくい、事務局でつくった造語ではありますが、市内の人もつながるし、外からの人もつながる。人だけじゃなくて、物もつながる。そういったつながるエリアというのを構築していくんだよというところを少し方向性として打ち出しています。

それから、一番肝になるのが9ページになります。

これが今の方向性に対しての具体的な施策ということで、いろんな施策を上げさせていただ

いております。

この中で新拠点の部分で言いますと、中段の都市機能誘導施策の一番上のところに都市構造の再編というのがありますけども、この都市構造の再編の3つのぼつの一番上の利便性の高いエリアの市街化区域への編入、これが先ほど来出ております市街化区域への編入という、今後都市計画の手続をやっていきますよという施策になります。

その下のあたり、実際その市街化区域へ編入したところを含めて、どういうエリアとしていくのかというところで、観光拠点の整備とか、職住近接型の雇用創出、市民交流施設の整備、こういった施策を打っていきたいというのが、ここの9ページに書かれております。

それから、めくっていただきまして、11ページのところになりますが、いろいろな施設についてここに書いております。ターミナルとか、高齢者向けの住宅とか、交流センターとか。これについては、協議会の中で今市にとって不足していて、今後必要だろうというようなものを、市民のアンケート等をベースにして、こういう形で取りまとめている。

少し説明しますと、今の上のピンクの都市機能誘導施設、これはこの立地適正化計画という計画の中で施設を位置づけますと、こういうものが新たに企業を誘致してくる場合、進出してこられる場合に税制上の優遇措置があったりと、これもこの計画をつくる一つのポイント、狙いではあるんですけど、そういったものにこれらの施設を今回位置づけていきたいと考えております。

それから、次の12ページになります。こちらが、今の新拠点を含む行政ゾーンです。市役所の周辺も含めてのエリア、これを都市機能を集積するゾーンということで、エリア分けをしております。このうちの中心になります、緑で書いてある公共ゾーン、こちらについては、別資料でこの後また説明をさせていただきたいと思っております。

それから、最後になりますが15ページ、スケジュールということで書いております。

先ほど言った、4月に説明会を実施しておりますけども、今後、パブリックコメント等でさらに市民の方の御意見を聞いていきたいと考えております。その後、原案という形で公表していきたいという流れですけども。この委員会等でも恐らく今後御意見をいただくでしょうし、それ以外でも、今日の場合ではなくても、また御意見、御質問等ありましたら、頂戴いただけましたら適宜このパブリックコメントと同じような扱いで意見として集約していきたいと思っておりますので、また意見を寄せていただけたらと考えております。

私からは以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

今、高橋部長から説明をいただきましたが、その件につきまして質疑等ございましたらお願いをしたいと思います。

いかがでございましょうか。お聞きしたいこと等ございましたら、よろしいでしょうか。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） 15ページのスケジュールの中で、いわゆる新拠点整備に係る権利者説明会が既に2回終了しているという表記がなされておりますけれども、この権利者に対する説明というのは、説明できる範囲で、どういう内容なのかちょっと教えていただければと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） これにつきましては、このエリアというのが今、田んぼ、農地みたいなところを市街化区域に編入していくということで、かなりそういう権利を大きく変えていくエリアになりますので、立地適正化計画をつくること自体に支障はないんですが、その次の我々がやりたい市街化区域の編入に当たりましては、地権者の方の同意というものが、一定の同意が必要になってくると思っておりまして、その同意をいただくに当たってはこういう説明会が必要というところで、ここについてはちょっと先に説明をしてるような状況になってます。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） 当然、農地を市街化区域に変更するということになれば、農地を一応潰すということだと思いますけれども、具体的に用地買収とかということまでは踏み込んでいないと理解すればいいのでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） その土地を買うとか買わないというか、これがエリアとしては先ほどの図面の中にあります、12ページにあります生活利便ゾーン、公共ゾーン、産業振興・賑わいゾーン、これ全体の説明をしておりまして、今土地を買うということであれば、公共ゾーンについては市のほうでと思っておりますが、それ以外のところは市が直接買うというようなエリアではございませんので、土地を買うということではなくて、このエリアをどういうふうな姿で今後つくっていくのかといったところを住民の方に今後お聞きしていこうと思っています。そういう流れが今後生じますよということを4月には説明させていただいて、今後、各その地区の中で市も交えて、ここでどういう町をつくっていくかというのを一緒に話しをしていくということを予定していますので、今回だけではなくて、これは何回か今後ずっと続いていくというものになります。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（佐藤 武君） はい、結構です。

○委員長（金谷文則君） 他に。

安藤委員。

○委員（安藤利博君） 今回の件に関連してなんですけど、その調整区域の地権者、耕作者、農地の方ですね。これは、大体何名ぐらいいらっしゃるって、それとその中で公共ゾーンに関わる方は何名といいますか、どのくらいおられるんでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） 今把握しておりますのが、全体で200名弱ぐらいの権利者の方がおられると思ってます。そのうち公共ゾーンでは、50人はいなかったと思います。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） その公共ゾーンで、具体的に進んでいけば、その50人で言ってみれば収用に賛成していただく。全員は難しいかもわからないんですけど、これはどの程度あれば進められるんでしょうか。全員は無理ですよ、多分。全員じゃないとできないんでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） 最終的に公共ゾーンで何かしようと思えば、当然土地を買わないといけないですから、そういう意味では100%必要になってきます。土地の真ん中が抜けてたら、そこに施設はできませんので最終的には必要ですが、その当面、都市計画の手續と言いましたけど、手續のときについては、そこは何%ということは具体には決まっておきませんので、例えばおっしゃられるように100%がちがちで印鑑をついてもらうとか、そういうことにはならないので、今我々としては地区の方に説明しながら、地区全体として同意をいただければ、それで都市計画の手續としては前へ進んでいこうと思っています。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） 計画段階はそうだと思うんですけど、私が今言ったのは、実施段階で市が買い上げると言ったときに、例えばだから100%と言ったのは、もう強制収用するとか、そういったとこまで想定されてるのかということです。今おっしゃったように、残れば全体が進められなくなっちゃいますよね。そのあたりはどういうふうにお考えでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） おっしゃられるように、全員の土地がなくては事業にならないんではありますけども、その言われる収用みたいなことは、当然するべきではない、しないほうがいいものでありますので、基本的にそうならないように、今の段階から住民の方としっかり話して進めて御用意いただいて、100%でいきたいと思っています。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） もう一点だけ。

公共ゾーン以外の大型商業ゾーンとかあります。これはもう行政は、その区域の指定だけで、実際の何をする、土地を買い上げるとかというのは民間の業者にお任せするということがよろしいのでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） ちょっと細かいあれになりますけども、エリアを設定するだけでは、市街化区域になれば今度は規制が緩いというか、いろんなものが入ってこれますので、入ってこれないようにその中に地区計画というものをつくって条件立てていきます。こういう大きな建物は入ってこれないとか、そういう地区計画というものをつくっていくようになるんですけども、それである程度、目指す町になる方向に行政としては導いていくというのを、住民の方と一緒に地区計画をつくっていくということになります。

土地を買ったり等はございません。

○委員長（金谷文則君） 中の細かいことについては今やるつもりにはしてませんので御了解ください。

○委員（安藤利博君） 分かりました。

○委員長（金谷文則君） 他にございませんでしょうか。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 地権者、耕作者の約200人への説明だけですが、多分その周辺だと思うんですが、あそこが相当変わってくるわけじゃから、もうちょっと範囲を広げて、地域の人が説明会を開いてくださいということがあれば、そのあたりはされるんですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） おっしゃられるように、まずは一番その権利が大きく変わる

方を先に今話をさせていただいておりますけども、その地区全体として、当然、言われるようにその周辺の方とかも影響が出てきますので、そういったところから声が上がってくれば、それに応じて説明会等を開催していくということになると思っています。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

一応こういうことを、例えば説明会がありましたという今御報告をいただいておりますので、ああしろこうしろというのは、これも委員会の中で例えば皆さんで決まったことについては執行部にお願いをするという形でいかないと、ちょっと話が飛んでいってしまいますので、その辺のところは十分御理解をいただいて質問、質疑等をお願いしたいと思います。

他にございませんでしょうか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 一応確認ですけど、さっき説明の中で11ページのピンクのところですよ。都市機能誘導施設ということで、例えば交通、福祉云々とかいろいろ、何か交通ターミナルとか云々ありますけど、こういったことに関しては、国から支援か助成がつくということでしたらいいということですね。今、市が考えようとしてる、我々も思ってるようなものが書いてあるんですけど、こういった施設をつくと国の支援があるということで理解したらよろしいということですね。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） おっしゃられるように、逆に言いますと、このピンクのだけが支援があるということではないんです。下のほうにある、例えば下の左側の表に都市機能誘導施設以外の立地を促進する施設とありますけど、こういったものの中でも優遇措置があるものもあるんです。いろんな措置があるんですが、このピンクのところは、今回の立地適正化計画をつくることによって新たにこういう優遇措置が受けれるようになる、そういうものだと捉えていただけたらいいかと思います。いろんな企業を誘致してくるときに、市からも優遇措置といいますか、そういうメニューは市でも既に持ってる部分もあるんですけど、それ以外で今までは手が出なかったようなものに、立地適正化計画で位置づければ新たにこういうものにも優遇措置が出てくるという、そういうものになります。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（松田 勲君） よろしい。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） 今後のスケジュールの中で、6月以降にパブリックコメント実施と原

案の公表とあるんですけど、もしも大体でも想定されてるのであれば、これがいつ頃になるのか分かっておれば教えていただけませんか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） 今のお話で6月パブリックコメントとしておりますけども、これから説明していく中で、先ほど福木委員もおっしゃられましたけど、もうちょっと要るのではないかというようなことが出れば当然延びていきますし、もうこれは最短で6月パブリックコメント、そして夏ぐらいに原案というのが、事務局としては最短だと思っております。その都度、1つ増えればまた少し遅れていくというのはあるかなと思います。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（安藤利博君） はい。

○委員長（金谷文則君） それでは次に、公共ゾーンのイメージの説明を受けたいと思っておりますので、休憩を15分まで取りたいと思いますので、休憩といたします。

午前11時8分 休憩

午前11時15分 再開

○委員長（金谷文則君） それでは、休憩前に引き続きまして会議を開きたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

では、新拠点における公共ゾーンの整備について執行部から説明をいただきましたので、続きまして公共ゾーンのイメージということについての説明をお願いいたします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） では、資料の17ページの図でございますが、あくまでこの図というのはたたき台の資料というイメージで作らせていただいたということをお最初に御了解をお願いいたします。

この図でございますが、この沿道の交通量等から算出した駐車場の台数、これが100台から150台ということで設定をいたしまして、20ページに一覧を示してございますが、同規模の先進事例から想定をしている機能ごとの面積というものを割り出しまして、この図に落とし込んだものでございます。

駐車場の台数とか盛り込んでいく機能、それから配置等について、先ほどからも御意見をいただいておりますので、今後さらに、この委員会をはじめとしまして御意見をいただきまして詰めていきたいと考えております。

17ページに戻っていただきまして、この最下段にスケジュール案ということで記載をさせていただいておりますが、この後資料を御覧いただくようになりますけれども、今年度、国の補助

2分の1を受けまして事業計画の検討業務の発注をさせていただきたいと考えております。

これは、もちろんこの委員会等で御協議をいただくための基になる資料づくりということになりますが、施設の形態でありますとか規模、それから概算事業費、スケジュール等について算定を行っていくという業務になります。

この後、この調査結果を受けまして、令和6年度にこの整備、運営の事業者の選定に入っていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

今の御説明をいただいたことについて質疑等ございますか。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 1点確認させてください。

ただいまの17ページ、公共ゾーンのイメージ図をお示しいただいて説明いただいたところでありますけども、道の駅を中心としたこういった新拠点につきましては、防災機能を持たず取組が最近の主流ではないかなと思うんですけども、赤磐市も岡山市に隣接してますし、大型災害のときのための防災拠点となり得るような施設にすべきというような意見もありますので、その防災機能についてどのようにお考えなのか、お願いします。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） おっしゃるとおりです。ここは山陽インターチェンジから近いということもありますので、当然災害が起きたときには、いわゆるエリア外の自治体等からいろんな支援物資を届けていただくにはちょうどいい場所になると思いますので、浸水想定の問題はございますけれども、物資の拠点としてはちょうどいい位置ではないかなと考えておりますので、この図の中にはっきり示されておりませんが、今後、そういった御意見をいただきながら、そのことについても検討はしていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、なければ、協議事項1番につきましては終了いたしたいと思えます。

それから、協議事項2番目その他、執行部から何かございましたらお願いをいたします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） それでは、その他といたしまして、資料の2ページを御覧ください。

本来ですと、先ほど議論がありましたように担当の所管の常任委員会でお出しするべきものかとは思いますが、この新拠点整備に係る予算ということで、今日この資料としてお出しをさせていただきます。

先ほどスケジュール案の中で若干説明をさせていただきましたけれども、事業計画についての検討業務、これを業者へ委託業務で発注をさせていただけたら、この予算を6月議会で上程をさせていただけたらと考えております。

詳細な説明につきましては所管の総務常任委員会で説明をさせていただけたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

今岡本参与から説明がありましたように、所管はあくまで総務常任委員会での事業でございますし、それから後は予算常任委員会へ係ってくるということになりますので、そこでまた御議論をいただくということになりますので、御了解をいただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

それでは、執行部からのその他はもうございませんかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 委員の皆さん方から何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、もう一つちょっとお願いをしときたいことがあります。皆さんの御意見の中で視察をしたいということが大半だったと思います。

その視察をするにも、皆さんが行きたい場所とか知りたい場所、行ったことがある場所、それから、こういうようなところがあるらしいが調べてみてくれ、こういうところはどうかというような提案をいただきたいと思います。それをいただいた中で、できることできないこともございますし、執行部と相談をしながら1度計画をしてみたいなど。

それともう一つ、その件について、みんなで行くということにつきましては、予算計上が当初されておりませんので、みんなで行くということになれば、皆さんの御協力をもって補正を執行部へお願いをして、認めてやっていくということの手続がありますので、もし本当に視察を十分して市民にちゃんと説明をするという気持ちになれば、早めに、こういうところへ行きたい、こういうふうにしたいとかということをもまず委員会へ言っていただきましたら、その計画を立てていきたいと思います。

次のスケジュールとしては、今事務局とも話をしましたが、今日話をさせていただいたものについては取りあえずまとめて、それをできたら26日の全協のときにこういう御意見がありましたと、だからこういう方向でと簡単に御説明ができたかなと思っております。

それを受けて、できたら6月13日が一般質問の最終日で、その人数が何人になるのかというのはちょっと定かではないんですが、いつものとおりに考えたときに4人から5人の方がおいでになると。その後、できたら1時間ぐらいこの委員会をちょっと開催させていただいて、そこでこれからの視察とか、そのことについて皆さんの御同意なり御意見をいただいて、次の7月の委員会ということを先ほど申し上げましたけども、そのときは視察委員会という形のものでできたら、どんどん進んでスピードが上げていけるのかなと思いますので、いかがでしょうか。そういうふうに考えておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、大枠はそういう形で進めさせていただきたいと思いますので、もし変更がありますようでしたら事前にまた御連絡を申し上げるということで御了解をください。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 副委員長、よろしいですか。

○副委員長（光成良充君） はい。

○委員長（金谷文則君） 事務局、よろしいか。

○議会事務局長（土井常男君） はい。

○委員長（金谷文則君） それでは、他にないようでございますので、以上をもちましてまちづくり調査特別委員会を閉会といたします。

大変お疲れさまでございました。

午前11時25分 閉会